

女子に向いていない職業とお思いになりますか？

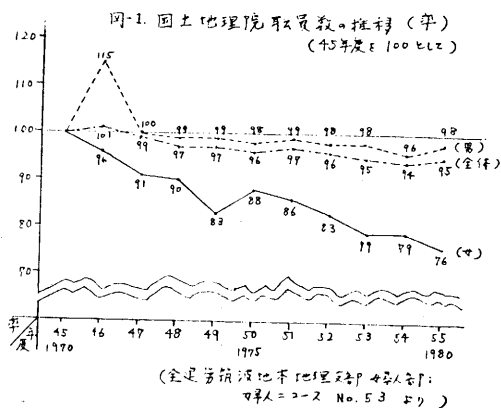
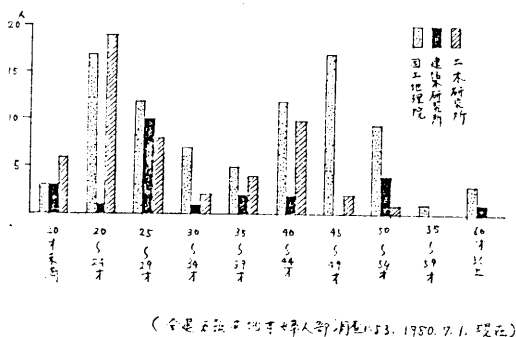


図-2. 建設省庁局30歳未満職員の年齢別構成



(実数)

	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	45-55
男	70.5	75.7	77.7	75.7	74.8	74.6	75.5	74.5	72.5	72.2	73.1	72.1
女	25.6	24.6	25.6	24.4	23.5	24.5	24.1	23.6	23.3	23.5	22.1	23.1
計	96.1	100.3	103.3	100.1	98.3	99.1	99.6	98.1	95.8	95.7	95.2	95.2

私は管理職1年生

土 岐 みどり

卒業して27年、以来ずっと教職についております。27年間はあっという間に過ぎたようにも思いますが、現在までに到った経過を考えますと長く大変な道のりであったという思いがします。

その27年をいくつかに分けると、始めて教職について仕事に夢になった結婚前の夢多き時代、2年後に結婚してからは、教師としての仕事と家事を両立させ、家の基礎づくりに励んだ時代、結婚6年目に子どもが生まれたあとは、更に育児が加わり、てんてこ舞いをした子育ての時代、子どもが中学生となったのを機に再び教師の仕事にファイトを燃やした熱中時代、そのあとは、まだ子どもが高校3年生で、受験期をひかえ四苦八苦し親の愛を一身に集めたがっているのを知りつゝ管理職に幸か不幸か任命され、昨年の4月から管理職時代へと入り、今、その1年生です。

今、私の勤めている横浜市立の中学校は、111校ありますが、女性の校長1名、副校長5名が活躍しております。私は副校長の1人です。女性の占める比率が30～40%であっても、女性の進出は、その割ではありません。まだまだ「管理職は男性」という考えなのでしょう。国際婦人年を契機として、

婦人の地位の向上が叫ばれておりますが、女性が管理職となるのは大変なことです。

まず、同性からも異性からも注目されます。それでなくても職員は、管理職を敵視する傾向がありますが、そんな中で人間関係をうまくつくっていくことを考えるのですけれど、男性でしたら、一ぱいやりながらということになるのでしょうか、女性の私には、出来そうもありませんし、家には口を開いて食事を待つ家族がいると思うとおそくまでつきあうこともできないのです。結局、翔ぶことも、はねることもできない私には、職員に対しても、生徒に対しても、地域の人々に対しても、又仕事をするにしても、誠意を持ってあたること以外にないと思っています。その誠意は、やがて皆に理解され、協力を得るものと信じ、自分なりのいき方をしようと考えております。

管理職の仕事はいろいろですが、どれであっても、男性以上にやらなければならないのが現状です。まだまだ女性にはきびしい社会なので、仕方がないのです。

先日、先輩の女性校長さんより年賀状をいただきましたが、次のようなことが書かれていました。それは、私の校長が私に接し「女性を見直した」といっていたのを聞いてうれしかったという内容でした。

女性が男性の中で肩を並べて同等に仕事をしていくためには、男性の目を開かせるだけの女性自身に力がなくてはならないようです。それは仕事に対するきびしさ、「甘え」のない生き方。そして他人を包容する心の豊かさが求められているのだと思います。家庭と職場の谷間にあって、ゆとりをもって自分自身をとりもどすことのむずかしい、仕事に追われどおしの毎日ですが、心の美しさと知性あふれる心の豊かさを身にそなえた魅力ある人間をめざして日々努力する必要を感じております。幸い大学時代にその素地をつくっていただきましたので、更にその上に自分を築いていくために、その時々々に最善をつくそうとがんばっております。

(2回生)

北京・ヨーロッパの旅

金子晶子

7月26日夕刻成田発北京へ向う機中、私は赤く染まり重なり合う雲海に沈んでゆく夕陽を感慨深く見つめていた。いつか参加したいと願っていた海外研修、世界地理研究会の「北京・ヨーロッパ地理視察」23日の旅の出発である。参考にとコースに従い印象を記してみた。

北京、生まれ育った土地への再訪ということで種々な期待を抱いたが、圧巻は万里の長城であった。市の北西、八達嶺で尾根ぞいに左右に烽火台へと高くのびる長城、すりへった石の急勾配を登り烽火台に立つと、広大な荒野から騎馬民族が土煙をたて押し寄せてくる様が目に浮ぶようだ。築城に費した長い歳月、夥しい労働、こうした長城の歴史は、騎馬民族の恐れに対する農耕民族の戦いの歴史だったのかと今迄の疑問が突然解けるようだった。また長城、故宫等に見られる歴史と人民公社、少年宮、都市建設に見られる新しい国造りの息吹きの共存する都市でもあった。

青海い、白い大理石の殿堂パルテノンと駆け足のアテネを経て、東と西の接点イスタンブール。初めて目にするイスラムの世界、荘重なコーランの響きやオスマンの壮大なブルーモスクにみるエキゾ